

10月3日は創立記念日

本校の歴史は、昭和50年（1975年）4月に姫路東高等学校の御国野分校として、元姫路市立御国野小学校の校舎を間借りして開設されたところから始まる。元姫路市立御国野小学校は、現在姫路市東出張所のある場所だ。その場所で昭和51年（1976年）4月に正式に姫路別所高等学校として独立した。そして、昭和51年10月3日に現在のこの別所町北宿の地に、本館・普通教室棟が竣工（建物が完成してできあがること）し、移転したのを記念して、10月3日を創立記念日とした。ちなみに体育館は、昭和52年（1977年）4月に竣工している。

設立当初は、4学級の規模でスタートし、最大10回生（昭和59年1984年入学）の11学級まで拡大したが、46回生（令和2年2020年入学）からは3学級となり、現在に至っている。その間、平成17年（2005年）にひめじ別所駅が開業し便利になった反面、現在の2倍近い生徒が登下校時に周辺道路に殺到し、地域の皆様にご迷惑をおかけすることもあったように聞いている。

制服は、当初姫路東高等学校の分校から始まった経緯もあり、詰襟とセーラー服が17回生まで続き、18回生（平成4年1992年入学）から男女ともブレザーになった。現在のスーツタイプの制服は、37回生（平成23年2011年入学）から始まっている。今、それを着崩すことなく、爽やかに誇りを持って制服を着こなす君たちの姿が美しい。

2年後の2024年には、50周年を迎える。現在の1年生が3年生になった時だ。カジュアルフライデー・カジュアルウィークも始まった。本校の学校文化として、どんなものをどのように定着させるかは、君たち一人一人にかかっている。

ちなみに、10月3日は創立記念日を祝い、生徒休業日となる。新学期に入って三度目の三連休だ。

校歌が制定されたのは、昭和54年（1979年）

「澄みわたる朝の播磨路～」で始まる本校の校歌は、昭和53年（1978年）から公募され、翌年2月23日に校歌制定・発表会が行われた。作曲は林雄一郎氏、作詞は本校の旧職員佐々木恵雄先生がまとめられた。当時の校内新聞に「作詞者の心」と題して掲載された文章を引用する。

「なだれ落ちるような緑を背負い、山ふところに抱かれた学び舎と若人。『清山は我が目に清く 流水は我が耳に静かなり』王陽明の漢詩の終わりの語句の心に通じる気持ちを、校歌のモチーフに据えました。歌詞の一～三番に、『友愛・責任・自立』の校訓を、各々、朝・昼・夕方の情景を組み合わせ、ここに学ぶ生徒たちの決意を歌いました。」

コロナでなかなか歌う機会がないのは残念だが、何千人もの君たちの先輩方が歌ってきたこの母校の校歌を、卒業後も歌えるように大切にしていきたい。

飼い主と再会の犬、涙目に

「目は口ほどに物を言う」という話は以前この群青でも紹介した。今回は、人間だけでなく、犬の目についての研究で面白い発見があったという記事を紹介する。麻布大学菊水健史教授の研究チーム。

「研究チームは犬の目の縁に特殊な装置を付けて涙の量を測定。飼い主と5～7時間離れ離れになった後で再会すると、5分以内に涙の量が『著しく』増加することが分かった。（中略）また研究では、犬の涙が飼い主の感情に及ぼす影響についても調べた。（中略）涙を浮かべている写真の方が、通常の写真よりもはるかにいとおしく感じるとの回答が得られた。菊水教授は、犬にしてみれば飼い主に涙目を見せることでより大切にされる可能性が出てくると推論。（中略）他の動物と違って家畜化された犬は、時間をかけて人間との特殊なコミュニケーション能力を発達させてきた。」

(https://www.afpbb.com/articles/-/3420227?cx_part=related_yahoo)

潤んだ瞳で真剣に見つめられると、心が動くことがある。逆に目を潤ませることで、大切にしてもらえると本能で理解している人間の赤ちゃん、そして犬は、本能で涙目作戦を実行する戦略を持っている。

「目は口ほどに物を言う」わけだ。大切なことは、目を見て真剣に伝える。目薬でもさして、目を潤ませて「好きです」なんて伝えてみると、ひょっとして相手の心をつかめるかもしれない。「知らんけど！」

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩